

## 鳥人幸吉

人力による飛行を日本で初めて試みたのは、備前の表具師幸吉であったといわれる。それは、江戸時代のいくつかの文献で紹介されている。

幸吉は江戸中期の生。備前国児島郡八浜（現：玉野市八浜町）で旅館を営んでいた櫻屋清兵衛の次男として生まれた。現在は干拓地として埋め立てられているが、当時は漁港として商船の寄港地として栄えていた場所である。7歳の頃、父を失い近くの親類の傘屋に預けられた。しばしば近くの両児山（ふたごやま）に登り、鳥を眺めていたようだ。この頃から大空への夢を抱いていたのかもしれない。後に岡山の表具屋に移った。生来の器用さから腕を上げ、得意先から指名されるほどになった。店は岡山城の西、上之町（現：表町）という商人町にあった。幸吉がいつどのようにして飛行に興味を持ったのかは明らかではないが、朝夕近所の蓮昌寺（れんじょうじ：岡山市北区田町。日蓮宗の寺院）へ行き、鳩や雀を観察して飛行理論を組み立てたようである。その理論は伝承によって若干の相違はあるものの、大体次のようなことである。「様々な（あるいは一種類の）鳥の羽と胴の重さを計測し、その割合を導き出す。それを自分の体に当てはめて相当する翼を作れば、人間も鳥と同じように空を飛べるはずである」。自分の体に合う大きな翼を、熟達した表具師の技をもって制作した幸吉は、岡山城以外で一番高い京橋（きょうばし：岡山市北区と中区区境の旭川に架かる橋。日本百名橋の一つ）を実験場所を選んだ。しかし、何度目の実験だったのか、飛行に失敗して群集の中に落ちてしまう。まさか空から人が落ちてくるとは夢にも思わない人々は河原から逃げ惑い、のどかな夕涼みの風景が一転大騒ぎになったという。その騒ぎが元で、幸吉は岡山藩から所払いの刑を受ける。一度郷里の八浜に戻った幸吉は船乗りになり、静岡へ行き雑貨商「備前屋（びぜんや）」を開業、かなり繁昌した。かつて覚えた入れ歯作り、時計修理を副業としていたが、空へのあこがれ止み難く、51歳のとき、体力的に最後のチャンスと、またもや安倍川の河原で家族や職人の引く綱に引っ張られて空中散歩を楽しんだ。これまたお上の知るところとなり静岡を追放となった。遠江国見附（現：静岡県磐田市）に移り飯屋を営み（見付郵便局付近）妻子を得て平穏な余生を送り、1847年（弘化4年）に91年の長寿を全うし死去したとも伝えられる。二番町大見寺の墓地に「演誉清岳信士」（えんよせいがくしんじ）と刻まれた墓石が現存し、過去帳に記載されている。

生まれ故郷の玉野市は、幸吉の顕彰につとめ、平成6年より毎年「幸吉フェア」を行い、研究会もある。2015年11月8日、磐田市との友好都市提携を結んだ。

なお、1997年には旧岡山藩主池田家の当時の当主から幸吉の所払いが許された。

### 【参考文献】

『岡山県総合文化センターニュース』No. 423号、H12年、9月



表具師幸吉の碑（岡山市旭川河畔）と京橋（碑後方）

## 幸吉フェア 取組の概要

### ○ 目 的

地域の行事に生徒が主体的に参加することで地域への関心を高め、地域づくりを担う一員であることの自覚を促すとともに、地域の方の指導を受けることで地域の教育力を学校教育に生かしていく。

### ○ 日 時

11月中旬の日曜日（平成6年～現在至）

### ○ 実施方法

幸吉フェアとは、「鳥人幸吉まちづくりフェア」（櫻屋幸吉保存会、玉野市観光協会主催）の略称である。地元八浜出身で、江戸時代後期に世界で初めて空を飛んだとされる表具師幸吉を顕彰する、地域ぐるみのイベントである。当初は本校や藤原元太郎（初代八浜町長、元県議会議員、衆議院議員）邸周辺で行われていたが、平成22年度より本校を会場にパネル展やバザー・模擬店・茶席など多彩な催しが行われている。中学生も参加することで学校全体でこの行事をバックアップしている。この取組は総合的な学習の時間の一環として行い、各クラスから実行委員を選び、地域の幸吉フェア実行委員会との協議会にも出席させている。

1年生は総合的な学習の時間として、地域の史跡、施設、自然、産業などの「地域調べ」の成果を教室で発表する。2年生はカレー、焼き鳥、おでんなどの模擬店を出店。3年生は運営スタッフとして準備、進行の補助を行っている。



地域調べ 波知獅子舞実演



地域調べ 八浜八幡宮祇園囃子実演



お茶席での接待の手伝い



地域の模擬店の手伝い



生徒参加の模擬店 焼き鳥



地域調べの発表



模擬店教室レストラン



イベントのアナウンス



## ○ 成果と現状

地域の行事に主体的に取り組むことで地域の一員としての意識が高まってきた。1年生は地域へ実際に足を運んで調べる中で、今まで知らなかった地元の姿に触れるとともに、「幸吉フェア」という大きな行事の一環として、その発表を地域の方に見てもらうなかで、やりがいを持って行っている。2年生は平成25年度から、模擬店の準備から販売まで、有志の保護者の方と一緒に作業を行っている。保護者に中学生の頑張る姿を見てもらい、中学生も調理等で保護者に指導を受け、相互の交流が進んでいる。コミュニケーション能力の向上と共に、自分の能力を発揮する場ともなっている。3年生は主催者である地域の大人から直接指示を受けるため、自分たちの甘えが許されない。地域の方から直接指導していただくいい機会となっている。

公共心を養うとともに地域の一員としての自覚が芽生えてきている。



図 日本航空館より



幸吉フェアのオブジェ

## 八浜秋祭り「奴行列とだんじり曳き」参加の取組

### ○ 取組の概要

八浜八幡宮の秋祭りは、玉野市指定の重要無形民俗文化財に指定されている。そのハイライトが「奴行列とだんじり曳き」である。奴行列には江戸時代から伝わる独特の所作がある。この奴行列に平成24年度から八浜中学校の3年生が参加している。

生徒の地域への関心の向上につなげたいと考え、毎年3年生を対象に秋祭りについての事前学習を行っている。地域の実行委員会の方に来ていただき、秋祭りや奴行列の歴史や伝統、それにかける地域の方の思いなどを話していただいている。それを踏まえて希望をとり、有志が参加し当日に向け地域の方の指導により、約1ヶ月間の練習を行っている。



後方に見えるのがだんじり

## ○ 成果と現状

地元ではあっても、従来、祭りへの関心や参加は決して高いとは言えなかった。事前学習や地域の方の講話を行ったことで、伝統ある祭りを知るきっかけとなり、主体的な参加者や多くの祭りへの見学者へと結びつけることができた。中学生の参加は地域の方にも注目され、好意的に受け止められるとともに、参加した生徒の誇りともなっている。